

研究所通信第100号に寄せて

所長 西本 照真

本学は、建学の精神である仏教の「生きとし生けるものが幸せであるために」という願いに導かれ、2016年4月に新しいブランドステートメント「世界の幸せをカタチにする。」を宣言し、その新ブランドを具現化していく第一歩として Musashino University Creating Happiness Incubation（通称：武蔵野大学しあわせ研究所）を2016年7月に開設しました。卵を温めふ化させていくように、幸せを願い温めてカタチにしていきたいとの思いから Incubation としました。設立以来、6年半が経過しました。教職員、学内外の150名を超える方々が研究員としてご参加いただいています。この場をお借りして、これまでの研究所の活動にご参加、ご協力をいただいた皆様方、また活動を支えてくださった事務組織の皆様に、厚く御礼申し上げます。

これまでの主な取り組みを振り返ると、毎年、しあわせ研究費を申請いただき、研究活動を補助してきました。これまでに134件の研究にしあわせ研究費が交付されました。研究成果の発表の場としては、Happiness Meeting（7回）、しあわせ研究

所シンポジウム（6回）、しあわせ研究所国際シンポジウム（3回）、shiwase シンポジウム（慶應義塾大学大学院 SDM 研究科ウェルビーイングリサーチラボとの共催4回）、しあわせ研究所紀要（5号）、しあわせ研究所叢書（①）などを通じて、実りある研究成果の発信がなされてきました。

さらに2022年度には、第1回高齢者学シンポジウム「古稀式 ～さらなる豊かな人生の門出を祝う会～」(昨年9月)も開催され、活動の幅も広がりを見せています。

また、褒賞活動としては、日々の生活の中で実際に幸せをカタチにした学生や教職員に贈られる Creating Happiness 賞（13件）やSDGsの取り組みに対して贈られるSDGs Award（22件）など、本学らしいユニークな活動もなされています。

このような実に多様で広範な活動の紹介をタイムリーに皆様にお届けしたいとの願いを込めて、2017年12月に「武蔵野大学しあわせ研究所通信 Vol.1」を発行しました。5年余りの歳月を重ね、この通信も記念すべき100号を迎えることとなりました。来年は創立100周年ということで満数が続きます。次の100号、次の100年に向かって、皆様とともに世界のしあわせを問い続け、カタチにし続けていきたいと思えます。

感謝と、御礼と、新たなスタートへの思いを込めて。